

道路政策の改革の視点

1. 高齢化する道路ストックに対応した戦略的道路管理

トータルコストを抑えながら戦略的に管理することが重要

⇒ 今ある道路ストックを守り、必要なサービスレベルは確保

- 1) ネットワークの機能を確保する観点をより重視し、道路管理、防災対策を計画的、戦略的に推進
- 2) 事後的損傷対応から予防保全に転換し、ストックの長寿命化を図る
- 3) 日本の厳しい条件に対応したマネジメントの実施

2. 既存ストックの徹底的な利活用

道路利用者にとってより使いやすくすることが重要

⇒ 今ある道路ストックを活用して、道路の機能を最大限発揮するための工夫

- 1) 交差点の立体化や右折レーンの設置、歩道の段差解消、既存の道路空間を活用して車線幅を縮小し配置を工夫するなど、既存道路をより使いやすくする「改良再生」
- 2) 情報通信技術を活用して、道路交通サービスの飛躍的な向上
- 3) 料金による高速道路ネットワークの有効活用などの交通運用施策
- 4) 路上工事や路上駐車など、道路の走行機能を損なう要因の影響を抜本的に改善
- 5) ネットワークとしての使いやすさ向上

3. 地域の人々とともに進める道路・沿道空間の再生

道路が持つ空間機能を最大限に発揮することが重要

⇒ 沿道空間との一体化、地域住民との協働により、円滑に取り組みを進め、空間機能をより発揮

- 1) 沿道も含めた道路景観の向上
- 2) 道路と沿道空間の一体的な活用
- 3) 道路利用者、地域住民、NPO等との連携、協働

4. プライオリティ(優先順位)の明確化によるスピーディーな事業展開

事業のプライオリティを明確にして、重点化・効率化を図り、スピーディーに事業展開することが重要

- 1) 事業のスピードアップと徹底的なコストの縮減
- 2) 事業の性格に応じた適切な視点を持って、選択と集中による効果的な投資
- 3) 地域住民のニーズや生活実感をより反映した重点的な対策箇所の選定